

競技別実施要項 【軟式野球】

- 1 期 日 平成30年6月2日(日)～17日(日) 予備日：6月23日(土)
1回戦：6月2日(土)、2回戦：6月10日(日)、準決勝、決勝：6月17日(日)
- 会 場 県立境川遊水地公園(少年野球場A、B) 神奈川県立相模三川公園
- 住 所 横浜市泉区下飯田町5-5 海老名市上郷2-1-1

2 参加資格

- (1) 単位団：平成29年度日本スポーツ少年団に登録している団で、今年度も登録する団。
- (2) 指導者：平成30年度スポーツ少年団登録する指導者で、集団指導の能力に優れ、所属市町スポーツ少年団本部長が推薦する者。
- (3) 団員：平成30年度スポーツ少年団登録をする平成30年4月1日現在小学校6年生以下の団員で、所属市町スポーツ少年団本部長が推薦する者。
- (4) 高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会神奈川県予選会に参加申込みをしている単位団とその構成員の出場は認めない。(要注意)
- (5) 平成29年度スポーツ安全保険(同等の補償のある傷害保険を含む)に加入済みであること。
- (6) 下記大会の全日程に参加できるチームであること。
- 関東ブロック予選：平成30年7月21日(土)～22日(月) <山梨県>
 - 全国交流大会：平成30年7月28日(土)～31日(火) <長崎県>
- *ブロック予選にて上位2チームが出場

3 参加者及びチーム編成

- (1) 代表指導者及び指導者は有資格指導者(認定育成員または認定員)であること。
- (2) 団員は、小学校6年生以下 計18名。なお、団員・指導者とも同一の単位団所属であること。
- (3) 大会期間中における指導者の交代については、特別な事情があり、かつ、主催者が認めた場合に限り可能とする。

- 4 参加料 1チーム 10,000円

5 参加チーム数とその選出

- 各市町本部から推薦されたチーム(各1チーム)
- (1) 参加チーム数 16チーム
- (2) 参加チームは次の通りとする。
- 横浜市、川崎市、横須賀市、平塚市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、逗子市、相模原市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、座間市、寒川町、湯河原町

6 申込締め切り及び代表者会議

- 出場チームの代表指導者は必ず出席すること。
- (1) 申込み期限 締切日 平成30年4月27日(金)
- ※ 代表チームが決まっていない場合は、大会出場の有無を連絡し、代表者会議に本部代表として、必ず1名は参加させること。

- (2) 代表者会議 日 時 平成30年5月11日(金) 18時30分から
- 会 場 かながわ県民サポートセンター<301会議室>
- 住所：横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2
- 交通：横浜駅西口から徒歩5分
- <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5681/p16362.html>

7 表 彰

優勝チームには、優勝旗(持ち回り)、賞品(トロフィー)、賞状を授与し表彰する。
準優勝・第3位のチームには賞品(トロフィー)・賞状を授与し表彰する。

8 関東ブロック大会

優秀なチームに山梨県で開催する関東ブロック大会(全国大会予選会)の推薦を行う。

9 競技ルール

「公認野球規則」及び「公益財団法人全日本軟式野球連盟競技者必携/学童野球に関する事項」による。但し、別に示す「神奈川県スポーツ少年団軟式野球交流大会競技規則及び取決め事項」はこれを適用する。

10 試合球

公益財団法人全日本軟式野球連盟公認C号球を使用する。

11 補 則

- (1)メンバー表の提出については、メンバー表は大会運営本部が用意するのでチームが球場到着の報告の時に受け取ること。
- (2)メンバーの変更は代表者会議の席上まで認める。その後の変更は認めない。
- (3)団員のスポーツ傷害、健康管理に十分注意すること。

12 そ の 他

- (1)本実施要項に定められていない事項が生じた場合は、競技委員協議の上、競技委員長の権限により処理する。
- (2)代表者会議で決められた事項は、団員は勿論のこと、応援の父兄その他の関係者に必ず徹底させること。
- (3)この大会に出場できるチームは「日本スポーツ少年団登録規程」により平成30年度指導者及び団員登録を完了し、同時にスポーツ安全保険(同等の補償のある傷害保険を含む)に加入しているチームであること。

13 個人情報取り扱いについて

別紙申込書に記載された個人情報は、大会プログラムの記載の他に、本大会の目的達成のために使用します。

神奈川県スポーツ少年団軟式野球交流大会競技規則及び取決め事項

本大会は公認野球規則及び競技者必携に定める規則細則、競技運営に関する取決め事項、競技に関する特別規則を適用して実施する。

1 規則細則(抜粋)

(1) チーム編成及びベンチに入れる人員について

1) チーム編成と競技者の背番号は以下に統一する。

- | | | |
|-----------|-------|------------------------------------|
| 引率指導者 | 1名 | 私服(運動のできる服装)とし、登録指導者とする。 |
| 代表指導者(監督) | 1名 | 背番号30番とする。 |
| 指導者(コーチ) | 2名以内 | 背番号28・29番とする。 |
| 団員(選手) | 18名以内 | 背番号0番から99番までとし、代表団員(主将)は背番号10番とする。 |

2) ベンチに入れる人員と指導者章・団員章の着用。

ベンチに入れる者は、参加申込者で登録された1)の者を原則とし、引率者・代表指導者(監督)・指導者(コーチ)は指導者章を着用する。また団員(選手)は団員章を着用する。

3) スコアラーについて

上記1)のほかにスコアラーを必要とする場合は1名のみベンチ入りを認めるが、団員以外とし、シートノックやマネージャー行為など、記録に関すること以外の行為は認めない。

また、ベンチ入りの際は私服し、運動のできる服装とする。

4) 熱中症対策スタッフについて

熱中症対策として、1チーム2名がベンチ入りすることを認める。なお、ベンチに入る場合は大会運営本部へ申請を行いこと。

スコアラー、熱中症スタッフを加えたベンチ入り最大総数は25名までとする。

(2) 用具、装具等及び禁止事項について

- 1) 打者用ヘルメットは7個以上を用意し、打者、次打者、走者及び走塁指導者(ベースコーチ)は、全員両側にイヤーフラップの付いたものを着用すること。
- 2) 捕手は捕手用ヘルメットとマスクを着用すること。(捕手用ヘルメットはマスクが分離したものを使用) また、プロテクター、レガース・ファールカップを着用すること。
- 3) バットは、全日本軟式野球連盟公認(JSBB マーク入り)の物を使用すること。
- 4) 素振り用の鉄棒(鉄パイプを含む)、バットリングは使用してはならない。
- 5) 同一チームの代表指導者(監督)、指導者(コーチ)、団員(選手)は、同色、同形、同意匠のユニフォーム・アンダーシャツ・ストッキング・帽子を着用すること。
- 6) 金属スパイクの使用を禁止する。

(3) 応援団等のマナーについて

- 1) 投手が投球動作に入ったら、応援はやめること。
- 2) 自チーム及び相手チームの団員(選手)に対する野次は、行わないこと。
- 3) 審判員に対する野次、ブーイングは行わないこと。

2 競技運営に関する取決め事項。

- (1) その日の第1試合のチームは、試合開始予定時刻の30分前までに、大会運営本部が用意する打順表1部を持って代表指導者(監督)と代表団員(主将)と一緒に本部へ提出し登録メンバーの照合を受けて攻守の決定を行う。打順表へは出場する選手全員を記載しフリカナをつけること。
- (2) 第2試合以降のチームは、前の試合開始1時間経過直後、または、**4回**終了前に打順表を提出すること。
- (3) 試合開始予定時間前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。
- (4) 試合開始時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- (5) 試合前のシートノックは5分間とする。ノッカーも選手と同一のユニフォームを必ず着用し、また捕手はプロテクター・レガース・ヘルメットを必ず着用すること。なお、大会運営の関係でシートノックを行わないこともある。
- (6) 次の試合のバッテリーが、球場内のブルペンを使用することは自動的に許されない。また、球場内でのフリーバッティング(ハーフバッティング含む)は認めない。
- (7) ベンチ内での携帯電話、携帯マイクの使用を禁止する。ただし、メガホンは1個に限り使用を認める。
- (8) 攻守交代時で最後のボール保持者は、投手板にボールを置いてベンチに戻ることに。
- (9) 試合中、代表指導者(監督)はグラウンドに入って指示を与えることができる。
- (10) 試合のスピード化に関する事項
 - ① 投手の準備投球数は球審の指示により行うこと。
 - ② 攻守交代は駆け足で行うこと。投手に限り歩いても差し支えない。また、監督・コーチのマウンドへの行き帰りは小走りで行うこと。
 - ③ 投手は、必ず投手板について捕手のサインを見ること。
 - ④ 次打者は、必ず次打者席へ入り低い姿勢で待つこと。
 - ⑤ 打者は、みだりにバッターボックスを外さないこと。サインもボックス内でみること。
 - ⑥ 内野手間のボール回しを制限することがある。
 - ⑦ 代打、代走の通告は氏名と共に「代打者」「代走者」の背番号を球審に見せて行うこと。
- (11) その他
 - ① ファウルボールの処理については、両チーム選手が行うこと。
ベンチ前から外野方向へのボールは両ベンチのチーム選手が処理し、また、バックネット前のボールは攻撃チームの選手が処理しボールボーイに返すこと。
 - ② 小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は試合を行うことがある。

3 競技に関する特別規則

- (1) 本大会の試合は原則として7回戦とする。
- (2) 本大会は1時間30分が経過したら、そのイニングが最終回となり、回数に関係なく正式試合となる。
- (3) 正式試合は5回終了以降とする。
- (4) 本大会において7回終了時、同点となった場合は次のイニングから「タイブレイク方式」に入る。
タイブレイク方式は、継続打順とし前回の最終打者を1塁走者、2塁、3塁の走者は順次前の打者として、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- (5) タイブレイク方式は最大2イニングまでとし、2イニングを行っても勝敗を決しない場合は、抽選によって勝敗を決定する。
- (6) 抽選方法は、全日本軟式野球連盟『学童野球に関する事項』による。
 - ① 試合終了時に出場していた両チームのメンバーが、終了あいさつの状態に整列する。
 - ② 抽選封筒(○×各9枚記入用紙)を球審が代表指導者(監督)立会いのもと、先行チームより1枚ずつ交互に選ばせて開封し、○印の多い方を抽選勝ちとする。
- (7) 大会の運営上、7回が終了するか、決められた時間が経過し同点の場合は、「タイブレイク方式」を行わず抽選で勝敗を決定する場合がある。
- (8) 5回終了以前に降雨、日没等で試合続行が困難となった場合の判断は本部の指示によるものとする。
- (9) 得点差のコールドゲームは次のとおりとする。
 - (ア) 3回以降10点、5回以降7点の得点差がある場合(点差コールド)
 - (イ) 日没・降雨等で試合続行が不可能となった場合(5回完了し得点差がある時)
 - (ウ) ノーゲームの場合は後日特別継続試合を行う。(通算して90分以内)
- (10) 原則として、ダブルヘッター(同一日2試合)を行わない。ただし、降雨等により大会運営上やむを得ない場合2試合行うことがある。
- (11) 抗議のできる者は、代表指導者(監督)または、当事者でなければならない。
- (12) 代表指導者(監督)または指導者(コーチ)が、投手のところへ行く回数の制限
 - ① 代表指導者(監督)または指導者(コーチ)が、同一イニングに同一投手の所へ2度行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。
 - ② 捕手を含む内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は7イニングの試合にあっては、3度以内とする。ただし、代表指導者(監督)又は指導者(コーチ)と共に行った場合は除く。
タイブレイク方式となった場合は、2イニングに1度行くことができる。
- (13) 投手は、変化球を投げることを禁止する。
- (14) 投手の投球制限について、健康維持を考慮し、1日7イニングまでとする。
(但し、延長戦の場合は除く)
投球イニングに端数が生じたときの取り扱いは3分の1回(アウト1つ)未満であっても、1イニングス投球したものとして数える。